

アメリカ雞の能力などについて

植 月 昌 彦 (県養鶏試験場技師)

何故アメリカ雞ブームが来たか

農業の中で成長部門として注目されている畜産、とりわけ養鶏については、めぼしい施策が取られていないのにも拘らず、最近急速な勢いで発展してきています。

この活況を呈している日本に、アメリカの孵化業者が目をつけ、販路拡張の手段として、進出して来たのが、現在のアメリカ雞ブームの要因となっています。そして、アメリカの業者の宣伝と共に、日本のマスコミュニケーションが更にこれに拍車をかけているように見えます。また、1つには日本人の舶来崇拜主義と、熱し易く、冷め易い、性質が重なりあって、このブームを作りつつあると思います。

能力はどんなものか

アメリカで最も権威があると云われている、カルフォルニヤ経済検定(平飼い)成績の平均を見ますと、第1表のとおりです。

この成績の検定期間は、1961年2月16日～1962年9月11日までの553日間ですが、平均産卵数はヘンデイ(19～79週令までの420日間)を使用しております。

鶏種は、白レグ、一代雑種などであり、()内は、当場の経済検定の成績です。

この表を見ますと、私達の常識はずれのような、粗収益が上っていますが、これは、アメリカにおける成績であって、日本での成績ではないのですから、総てをそのまま受け取る訳に行きません。()内の当場の

産卵数 (二七・七)	平均粗収益 一、二八・八 円	鶏卵代 二、七二・〇〇 円	鶏肉代 一、三〇・六〇 円	飼料代 一、四一・八〇 円	雛代 一、四〇・四〇 円
平均産卵数 (二七・七)	平均粗収益 一、二八・八 円	鶏卵代 二、七二・〇〇 円	鶏肉代 一、三〇・六〇 円	飼料代 一、四一・八〇 円	雛代 一、四〇・四〇 円

第 一 表

経済検定の成績とアメリカの鶏の成績を比較すると、日本の鶏がそれほど劣っていると感じませんが、日本の成績は、検定出品者からの、強い要望によって、平均の成績しか発表しないことになっていますので、この辺にも、アメリカ雞ブームに押し切られる遠因もあるように思われます。しかしながら、現在この問題は除外するとして、アメリカ雞の底辺をなしている、鶏の能力を、日本の鶏の能力と比較しますと、第2表のようになります。

日 本	ア メ リ カ	産卵個数	育成率	生存率	初産日数	卵重量
三二個	三三～三五個	九五～九六%	七〇%	七〇～七二%	一五〇～一六〇日	五六～五九g
七〇%	七〇～七二%	七〇～七二%	七〇～七二%	七〇～七二%	一七〇～一八〇日	五三～五五g

第 二 表

この表で見ますと、残念ながら全面降伏しなければならないようです。では何故、このような差が出るようになったのでしょうか、それは日本の改良方法か、指導者が悪かったとも云われていますが、第1の原因は、経済基盤の大きな差、即ち、総面積において、日本の25倍

(人口は約2倍)の大国であり、産卵鶏のみについても、総飼養羽数は3億7千万羽で、日本の7千万羽の約5倍に当り、卵の生産高は1年間に624億個で、日本(129億個)の5倍となっています。

このように、日本とアメリカはすでに総ての面で、大きな差があり、これが鶏の良否にもつながっていると思われま

どんな方法で、こんな鶏が作られたか

アメリカにおける、鶏の改良方法で、高度に鶏の能力を発揮させるものとしては、近親交配(親子、兄妹、またはこれに近い交配)を繰返してできた1品種中の系統と系統を交配するとか、またはその品種と品種を交雑して、強健性、産卵率、卵の斉一性

岡山畜産便り 1963.07

を高めています。近親交配は小羽数で実施しますと、悪い面のみ出やすいので、大羽数（約1万羽）の鶏から優れた雄、雌を並び出し、これを3～4代にわたって、近親交配を強めて作出するので、多大の経費を要します。したがって、アメリカで生産される雛が、総て、この方法により作出されるのではなく、一部の孵卵業者が実行しているに過ぎません。大体の改良方法は次のとおりです。

- (1) 近交系間雑種（インクロス・ブリード）
- (2) 近交系間交配（イン・クロス）

第3図のような交配を行なった場合が（1）でありこれを、同一品種で行なった場合が、（2）であります。

- (3) 閉鎖群間交配（ストレーン・クロス）

長期間に異血を導入しないものの交配。

- (4) 非近交系間雑種（クロスブリード）

異品種に属する、2つの非近交系を交配したものです。

以上のような方法を、日本で実施していなかったかと云いますと、（1）を除いては、総てやっていますが、飼育羽数の点などで、少し劣ったようです。

どんな方法で対処すべきか

アメリカ鶏の日本における、実際の能力を検定しようとする動きが、公共施設で見られますが、養鶏家の方は、この成績などを見た上で、始められても遅くはないと思います。

また、アメリカ鶏の最大の欠点である日本における新しい病気の多発と云うことです、1つの良い例が、アメリカでは呼吸器病の予防液の製造販売が行なわれているため、初生雛のとき、免疫を得ているのでこの病気に冒されるのが少なくなっていますが、日本ではまだ販売が行なわれていないので、多発し易いと云うことがあります。

養鶏家のみなさんが、忘れかけている重大な点が1つあります。これは日本鶏が世界に誇ってよい1カ年間の連産記録をもっていると云うことです、こうした立派な鶏を持ちながら、アメリカ雛に押し切られるようでは、養鶏の進歩はないと思います。

前述のように、アメリカ雛に現状としては1歩ゆずるとして、初生雛の単価の差、即ちアメリカ雛約

200円、日本雛約80円を無視することは出来ません。

ここで、全面的にアメリカ雛を否定するものではありません、あちらの良い処は取り、日本の悪いところは是正し、1円でも多く収益の上る良い鶏の作出に、私達も努力していますので、養鶏家の皆様も損をしないように、視野を拓けられることを、お願いいたします。

